資　　料

Ⅰ．学校全体に関する基本項目

1．学校名やご記入いただいている先生についてご記入ください。

⑴学 校 名 ＿＿＿＿＿＿立＿＿＿＿＿＿盲学校

⑵記入者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿⑶校務分掌等＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2．今年度の児童等の状況と交流及び共同学習の実施状況について下の表に記入してください。

学　部	小学部							中学部			
学　年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計
学 級 数							学級				学級
教 員 数注)							人				人
児童生徒数							人				人
学校間交流をしている児童生徒数							人				人
居住地校交流をしている児童生徒数							人				人

注)「教員数」の欄には、主にその学年の教育活動にかかわっている先生の数を記入してください。

本調査では、以下のように定義します。
・学 校 間 交 流＝盲・聾・養護学校に在籍する児童生徒が、盲・聾・養護学校の近隣の学校の児童生徒と活動を共にすること
・居住地校交流＝盲・聾・養護学校に在籍する児童生徒が居住している地域の小中学校に赴き、通常の学級の児童生徒と活動を共にすること

3．交流及び共同学習について、学校運営計画等にどのように位置づけていますか。あてはまるもの全てに☑をつけてください。よろしければ（　　）にその内容（文言）をお書きください。

□①　今年度の重点目標の一つとして掲げている
（　　）
□②　各学部の重点実践事項の一つとして掲げている
（　　）
□③　各分掌部、各種委員会の運営計画で取り上げている
（　　）
□④　その他
（　　）
□⑤　特に取り上げてはいない

4．交流及び共同学習を推進する校務分掌部の有無について、あてはまるものに☑をつけ、（　　）に記入してください。

□①　教務部
□②　研究部
□③　進路指導部
□④　地域支援部[注]　（貴校での名称：　　）
□⑤　その他　（　　）
□⑥　特に設けてはいない

[注]「地域支援部」とは、盲・聾・養護学校のいわゆる地域のセンター的機能にかかわる活動を推進する分掌を指します。各学校でそれぞれ名称が異なっている場合がありますので、もし名称が異なっている場合は貴校における名称を（　）内にご記入ください。

5．交流及び共同学習を推進する校内研究体制等があれば、その名称と、研究内容等を記入してください。

(1) 名　　称：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(2) 研究内容：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学校全体に関する設問はこれで終了します。以後の調査用紙は、小学部用と中学部用とにわかれます。構成と内容はほぼ同一ですが、交流の実施状況によって回答いただく設問が異なります。下の表をご参照の上、次頁以降の設問に進んでください。

交流の種類	実施状況	回答いただく項目名	ページ	
学校間交流	実施している学部	Ⅱ．学校間交流について	小学部－1～小学部－6	中学部－1～中学部－6
		Ⅲ．学校間交流の実際		
	実施していない学部	Ⅳ．学校間交流をしていない場合	小学部－7	中学部－7
居住地校交流	実施している学部	Ⅴ．居住地校交流について	小学部－8～小学部－13	中学部－8～中学部－13
		Ⅵ．居住地校交流の実際		
	実施していない学部	Ⅶ．居住地校交流をしていない場合	小学部－14	中学部－14

この用紙は　小学部用です

Ⅱ．学校間交流について

＊以下の設問には、学校間交流をしている場合にお答えください。
＊学校間交流をしていなければ「Ⅳ. 学校間交流をしていない場合」（小学部－７ページ）」に進んでください。

１．学校間交流を始めたのはいつですか。具体的にお書きください。（例…平成〇年度より実施）

２．昨年度（平成 16 年度）の学校間交流の実施状況について、下の表に記入してください。

実施状況	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回	８回以上	実施していない
児童数	人	人	人	人	人	人	人	人	人

３．昨年度（平成 16 年度）に学校間交流を実施した児童について、主たる交流先（回数が多い交流先）の状況によって分類し、右の表に記入してください。

主たる交流先が	同学年である児童数	人
	下学年である児童数	人
	上学年である児童数	人

４．学校間交流について、実施しているもの全てに☑をつけてください。また、その内容について具体的にお書きください。

□①　各教科（　　）
□②　道　徳（　　）
□③　特別活動（　　）
□④　総合的な学習の時間（　　）
□⑤　その他（　　）

５．学校間交流の目的やねらいについて、特に重要と思われるもの３つに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認する
□②　集団生活で社会性を培う
□③　異なる環境での適応能力を培う
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培う
□⑤　地域でのつながりや人間関係を形成する
□⑥　地域での生活基盤を形成する
□⑦　児童生徒について理解してもらう
□⑧　盲学校について理解してもらう
□⑨　保護者や本人のニーズに答える
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

6．学校間交流を実施した成果について、あてはまるもの(近いもの) 3つに☑をつけてください。また、(　)には具体的にお書きください。

□①　地域に居住する一員であることを互いに確認できた
□②　集団生活で社会性を培うことができた
□③　異なる環境での適応能力を培うことができた
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培うことができた
□⑤　地域でのつながりや人間関係を形成することができた
□⑥　地域での生活基盤を形成することができた
□⑦　児童生徒について理解してもらえた
□⑧　盲学校について理解してもらえた
□⑨　保護者や本人のニーズに答えることができた
(具体的に…　　)
□⑩　その他(　　)

7．学校間交流を実施しての課題や問題点等について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。また、(　)には具体的にお書きください。

□①　実施相手校の受け入れ体制について
□②　実施相手校の意識・理解について
□③　自校(校内)の体制について
□④　学校に残る児童生徒の対応について
□⑤　安全確保・緊急対応の問題
□⑥　付き添い(送迎も含む)の問題
□⑦　全員が実施できない
□⑧　交流に関する経費の問題
□⑨　児童生徒の居住地域と学校との距離の問題
(具体的に…　　)
□⑩　その他(　　)

8．学校間交流について、感じていることや意見がありましたら、ご自由にお書きください。

このページの記入が終わったら「Ⅲ．学校間交流の実際（小学部－３ページ）」に進んでください

Ⅲ．学校間交流の実際

ここからは、以下の条件に該当する児童１人（以下Ａさんと呼びます）を選んで記入してください。

（条件）　・昨年度（平成 16 年度）に通常の学級と交流し、教科学習の経験がある
・小学部に在籍する児童のうち、もっとも高学年である
・障害種別や程度は問わない

なお、プライバシーの保護については以下のように厳重に行います。
・調査用紙は当研究所内の研究分担者のみが読むこととし、他の者が読むことはありません。
・結果の公表にあたって地域名（都道府県名、市町村名）や学校名を明らかになることはありません。
以後の設問には差し支えない範囲でお答えください。

１．Ａさんについてあてはまるところに☑をつけ、（　）に記入してください。

⑴学年　　（　　）年生

⑵性別　　□①　男　　□②　女

⑶Ａさんの状態について

①眼疾患名（例　未熟児網膜症）　（　　）

②遠距離視力（矯正視力で、あてはまるものを〇で囲んでください。）

a　指数弁以下　　b　0.02 未満　　c　0.02 以上 0.04 未満
d　0.04 以上 0.1 未満　　e　0.1 以上 0.3 未満　　f　0.3 以上　　g　不明

③視覚補助具の使用状況（例：単眼鏡６倍、ルーペ 10 倍）

（　　）

④視覚以外の障害（例：知的障害）

（　　）

２．Ａさんの【学校間交流】についてあてはまるところに☑をつけ、（　）に記入してください。

⑴何年生から交流をしていますか

□①　小学部入学時から　　□②　（　　）年生の（　　）学期から

⑵昨年度（平成 16 年度）は、何回、学校間交流をしましたか。　（　　）回

３．Ａさんの【学校間交流】について、交流先の学級で配慮していることを記述してください。

⑴ Ａさんへの配慮

（例：Ａさんが見やすい拡大教材を準備した。教科書等を点訳した。）

（　　）

⑵ 施設設備など環境への配慮

（例：Ａさんが見やすいように傾斜机、あるいは個別照明等を設置した。）

（　　）

⑶ 学級の他の児童・生徒への働きかけなどを通して行う配慮

（例：Ａさんへの手引きの仕方などについて事前指導を行った。）

（　　）

⑷ その他

（　　）

４．Ａさんの【学校間交流】について、教育活動毎に選択して次ページの表に記入してください。

【交流の仕方】　それぞれの教科等について、Ａさんが交流している通常の学級が、同学年であれば①、下学年であれば②、上学年であれば③を記入してください。していない教科等は空欄のままにしてください。

【教　科　書】　交流している教科等について、Ａさんが使用している教科書が、通常の学級と同じものであれば①、通常の学級で使用しているものを複写したり拡大するなど加工したもの（拡大教科書等を含む）であれば②、通常の学級で使用しているものと違うもの（下学年のものやいわゆる 107 条本等）であれば③を記入してください。

【教　　材】　交流している教科等について、Ａさんが使用している教材が、通常の学級と同じものであれば①、通常の学級で使用しているものを複写したり拡大するなど加工したものであれば②、通常の学級で使用しているものと違うもの（下学年のもの等）であれば③を記入してください。

【教 材 作 成】　【教材】についての回答が②③の場合、教材作成をしているのが、通常の学級の教員の場合は①、盲学校の教員の場合は②を記入してください。

【評　　価】　交流している教科等について、Ａさんに対する評価を、通常の学級の教員がしている場合は①、盲学校の教員がしている場合は②を記入してください。

【付 き 添 い】　交流している教科等について、その時間に付き添っているのが、盲学校の教員の場合は①、Ａさんの保護者の場合は②、付き添っていない場合は③を記入してください。

この用紙は　小学部用です

	交流の仕方	教科書	教材	教材作成	評価	付き添い
国語						
算数・数学						
社会						
理科						
生活科						
英語						
図工・美術						
体育						
技術・家庭						
音楽						
道徳						
特別活動						
総合的な学習の時間						
学級活動						
給食						
清掃						
休み時間						
選択肢	①＝同学年 ②＝下学年 ③＝上学年	①＝通常の学級と同じ ②＝①を加工したもの ③＝①とは違うもの		①＝通常の学級 ②＝盲学校		①＝盲学校教員 ②＝保護者 ③＝介助員等 ④＝ボランティア等 ⑤＝なし

5．Ａさんの学校間交流の目的やねらいについて、特に重要と思われるもの３つに☑をつけてください。また（　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認する
□②　集団生活で社会性を培う
□③　異なる環境での適応能力を培う
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培う
□⑤　地域でのつながりや人間関係を形成する
□⑥　地域での生活基盤を形成する
□⑦　Ａさんについて理解してもらう
□⑧　盲学校について理解してもらう
□⑨　保護者や本人のニーズに答える
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

6．Aさんが学校間交流を実施した成果について、あてはまるもの(近いもの) 3つに☑をつけてください。
また、(　) には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認できた
□②　集団生活で社会性を培うことができた
□③　異なる環境での適応能力を培うことができた
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培うことができた
□⑤　地域でのつながりや人間関係を形成することができた
□⑥　地域での生活基盤を形成することができた
□⑦　Aさんについて理解してもらえた
□⑧　盲学校について理解してもらえた
□⑨　保護者や本人のニーズに答えることができた
(具体的に…　　)
□⑩　その他(　　)

7．Aさんの学校間交流を実施しての課題や問題点等について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。
また、(　　) には具体的にお書きください。

□①　実施相手校の受け入れ体制について
□②　実施相手校の意識・理解について
□③　自校(校内)の体制について
□④　学校に残る児童生徒の対応について
□⑤　安全確保・緊急対応の問題
□⑥　付き添い(送迎も含む)の問題
□⑦　全員が実施できない
□⑧　交流に関する経費の問題
□⑨　児童生徒の居住地域と学校との距離の問題
(具体的に…　　)
□⑩　その他（　　）

8．Aさんの学校間交流について感じていることや意見がありましたら、ご自由にお書きください。

このページの記入が終わったら「V．居住地校交流について（小学部－8ページ)」に進んでください

Ⅳ．学校間交流をしていない場合

1．学校間交流を実施していない理由について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　実施相手校の受け入れ体制の問題
□②　実施相手校の意識・理解の問題
□③　自校（校内）の体制の問題
□④　学校に残る児童生徒の対応の問題
□⑤　安全確保・緊急対応の問題
□⑥　付き添い（送迎も含む）の問題
□⑦　全員が実施できにくい
□⑧　交流に関する経費の問題
□⑨　保護者や本人からの要望がない
□⑩　ゆとりがない（忙しい）
□⑪　児童生徒の居住地域と学校との距離の問題
（具体的に…　　）
□⑫　学校の担当業務ではない
□⑬　わからない
□⑭　その他（　　）

2．もし学校間交流を実施したと仮定して、どのような成果があると考えられますか。あてはまるもの（近いもの）３つに☑をつけてください。また、（　　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認することができる
□②　集団生活で社会性を培うことができる
□③　異なる環境での適応能力を培うことができる
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培うことができる
□⑤　地域でのつながりや人間関係を形成することができる
□⑥　地域での生活基盤を形成することができる
□⑦　児童生徒について理解してもらえる
□⑧　盲学校について理解してもらえる
□⑨　保護者や本人のニーズに答えることができる
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

3．今後、学校間交流を実施する予定がありますか。あてはまるものに☑をつけてください。また、（　　）には具体的にお書きください。

□①　来年度より実施の予定
□②　２～３年以内に実施の予定
□③　未定だが将来的には実施の予定
□④　実施の予定はない
□⑤　わからない
□⑥　その他（　　）

4．学校間交流について、感じていることや意見がありましたら、ご自由にお書きください。

このページの記入が終わったら「Ⅴ．居住地校交流について（小学部－８ページ）」に進んでください

Ⅴ．居住地校交流について

＊以下の設問には、居住地校交流をしている場合にお答えください。
＊居住地交流をしていなければ「Ⅶ．居住地校交流をしていない場合」（小学部－14ページ）」に進んでください。

1．居住地校交流を始めたのはいつですか。具体的にお書きください。（例…平成〇年度より実施）

2．昨年度（平成16年度）の居住地校交流の実施状況について、下の表に記入してください。

実施状況	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回	８回以上	実施していない
児童数	人	人	人	人	人	人	人	人	人

3．昨年度（平成16年度）に居住地校交流を実施した児童について、主たる交流先（回数の多い交流先）の状況によって分類し、右の表に記入してください。

主たる交流先が	同学年である児童数	人
	下学年である児童数	人
	上学年である児童数	人

4．居住地校交流について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。また、その内容について具体的にお書きください。

□①　各教科（　　）
□②　道　徳（　　）
□③　特別活動（　　）
□④　総合的な学習の時間（　　）
□⑤　その他（　　）

5．居住地校交流の目的やねらいについて、特に重要と思われるもの３つに☑をつけてください。（　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認する
□②　集団生活で社会性を培う
□③　異なる環境での適応能力を培う
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培う
□⑤　地元でのつながりや人間関係を形成する
□⑥　地元での生活基盤を形成する
□⑦　児童生徒について理解してもらう
□⑧　盲学校について理解してもらう
□⑨　保護者や本人のニーズに答える
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

6．居住地校交流を実施した成果について、あてはまるもの（近いもの）３つに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認できた
□②　集団生活で社会性を培うことができた
□③　異なる環境での適応能力を培うことができた
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培うことができた
□⑤　地元でのつながりや人間関係を形成することができた
□⑥　地元での生活基盤を形成することができた
□⑦　児童生徒について理解してもらえた
□⑧　盲学校について理解してもらえた
□⑨　保護者や本人のニーズに答えることができた
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

7．居住地校交流を実施しての課題や問題点等について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　実施相手校の受け入れ体制について
□②　実施相手校の意識・理解について
□③　自校（校内）の体制について
□④　学校に残る児童生徒の対応について
□⑤　安全確保・緊急対応の問題
□⑥　付き添い（送迎も含む）の問題
□⑦　全員が実施できない
□⑧　交流に関する経費の問題
□⑨　児童生徒の居住地域と学校との距離の問題
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

8．居住地校交流について、感じていることや意見がありましたら、ご自由にお書きください。

このページの記入が終わったら「Ⅵ．居住地校交流実際（小学部－10ページ）」に進んでください

Ⅵ. 居住地校交流の実際

ここからは、以下の条件に該当する児童１人（以下Ｂさんと呼びますが、学校間交流で回答していただいたＡさんと同じ児童でも構いません）を選んで記入してください。

（条件）　・昨年度（平成 16 年度）居住地校交流を行って、教科学習の経験がある
・小学部に在籍する児童のうち、もっとも高学年である
・障害種別や程度は問わない

なお、プライバシーの保護については以下のように厳重に行います。
・調査用紙は当研究所内の研究分担者のみが読むこととし、他の者が読むことはありません。
・結果の公表にあたって地域名（都道府県名、市町村名）や学校名を明らかになることはありません。
以後の設問には差し支えない範囲でお答えください。

１．Ｂさんについてあてはまるところに☑をつけ、（　）に記入してください。

⑴学年　（　　）年生

⑵性別　□①　男　　□②　女

⑶Ｂさんの状態について

①眼疾患名（例　未熟児網膜症）　（　　）

②遠距離視力（矯正視力で、あてはまるものを〇で囲んでください。）

a　指数弁以下　　b　0.02 未満
c　0.02 以上 0.04 未満　　d　0.04 以上 0.1 未満
e　0.1 以上 0.3 未満　　f　0.3 以上　　g　不明

③視覚補助具の使用状況（例：単眼鏡６倍、ルーペ 10 倍）

（　　）

④視覚以外の障害（例：知的障害）

（　　）

２．Ｂさんの【居住地校交流】についてあてはまるところに☑をつけ、（　）に記入してください。

⑴何年生から交流をしていますか

□①　小学部入学時から　　□②　（　　）年生の（　　）学期から

⑵昨年度（平成 16 年度）は、何回、居住地校交流しましたか。　（　　）回

３．Ｂさんの【居住地校交流】について、交流先の学級で配慮していることを記述してください。

⑴ Ｂさんへの配慮

（例：Ｂさんが見やすい拡大教材を準備した。教科書等を点訳した。）

（　　）

⑵ 施設設備など環境への配慮

（例：Ｂさんが見やすいように傾斜机、あるいは個別照明等を設置した。）

（　　）

⑶ 学級の他の児童・生徒への働きかけなどを通して行う配慮

（例：Ｂさんへの手引きの仕方などについて事前指導を行った。）

（　　）

⑷ その他

（　　）

４．Ｂさんの【居住地校交流】について、教育活動毎に選択して表に記入してください。

【交流の仕方】　それぞれの教科等について、Ｂさんが交流している通常の学級が、同学年であれば①、下学年であれば②、上学年であれば③を記入してください。していない教科等は空欄のままにしてください。

【教　科　書】　交流している教科等について、Ｂさんが使用している教科書が、通常の学級と同じものであれば①、通常の学級で使用しているものを複写したり拡大するなど加工したもの（拡大教科書等を含む）であれば②、通常の学級で使用しているものと違うもの（下学年のものやいわゆる 107 条本等）であれば③を記入してください。

【教　　材】　交流している教科等について、Ｂさんが使用している教材が、通常の学級と同じものであれば①、通常の学級で使用しているものを複写したり拡大するなど加工したものであれば②、通常の学級で使用しているものと違うもの（下学年のもの等）であれば③を記入してください。

【教 材 作 成】　【教材】についての回答が②③の場合、教材作成をしているのが、通常の学級の教員の場合は①、盲学校の教員の場合は②を記入してください。

【評　　価】　交流している教科等について、Ｂさんに対する評価を、通常の学級の教員がしている場合は①、盲学校の教員がしている場合は②を記入してください。

【付 き 添 い】　交流している教科等について、その時間に付き添っているのが、盲学校の教員の場合は①、Ｂさんの保護者の場合は②、付き添っていない場合は③を記入してください。

この用紙は　小学部用です

	交流の仕方	教科書	教材	教材作成	評価	付き添い
国語						
算数・数学						
社会						
理科						
生活科						
英語						
図工・美術						
体育						
技術・家庭						
音楽						
道徳						
特別活動						
総合的な学習の時間						
学級活動						
給食						
清掃						
休み時間						
選択肢	①＝同学年 ②＝下学年 ③＝上学年	①＝通常の学級と同じ ②＝①を加工したもの ③＝①とは違うもの		①＝通常の学級 ②＝盲学校		①＝盲学校教員 ②＝保護者 ③＝介助員等 ④＝ボランティア等 ⑤＝なし

5．Ｂさんの居住地校交流の目的やねらいについて、特に重要と思われるもの３つに☑をつけてください。
（　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認する
□②　集団生活で社会性を培う
□③　異なる環境での適応能力を培う
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培う
□⑤　地元でのつながりや人間関係を形成する
□⑥　地元での生活基盤を形成する
□⑦　Ｂさんについて理解してもらう
□⑧　盲学校について理解してもらう
□⑨　保護者や本人のニーズに答える
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

6．Ｂさんが居住地校交流を実施した成果について、あてはまるもの（近いもの）３つに☑をつけてください。
また、（　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認できた
□②　集団生活で社会性を培うことができた
□③　異なる環境での適応能力を培うことができた
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培うことができた
□⑤　地元でのつながりや人間関係を形成することができた
□⑥　地元での生活基盤を形成することができた
□⑦　Ｂさんについて理解してもらえた
□⑧　盲学校について理解してもらえた
□⑨　保護者や本人のニーズに答えることができた
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

7．Ｂさんの居住地校交流を実施しての課題や問題点等について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　実施相手校の受け入れ体制について
□②　実施相手校の意識・理解について
□③　自校（校内）の体制について
□④　学校に残る児童生徒の対応について
□⑤　安全確保・緊急対応の問題
□⑥　付き添い（送迎も含む）の問題
□⑦　全員が実施できない
□⑧　交流に関する経費の問題
□⑨　児童生徒の居住地域と学校との距離の問題
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

8．Ｂさんの居住地校交流について感じていることや意見がありましたら、ご自由にお書きください。

このページの記入が終わったら小学部に関する設問は終了です。ご協力ありがとうございます。中学部に進んでください。

Ⅶ. 居住地校交流をしていない場合

1．居住地校交流を実施していない理由について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　実施相手校の受け入れ体制の問題　　□②　実施相手校の意識・理解の問題
□③　自校(校内)の体制の問題　　□④　学校に残る児童生徒の対応の問題
□⑤　安全確保・緊急対応の問題　　□⑥　付き添い(送迎も含む)の問題
□⑦　全員が実施できにくい　　□⑧　交流に関する経費の問題
□⑨　保護者や本人からの要望がない　　□⑩　ゆとりがない（忙しい）
□⑩　児童生徒の居住地域と学校との距離の問題
（具体的に…　　）
□⑫　学校の担当業務ではない　　□⑬　わからない
□⑭　その他(　　)

2．もし居住地校交流を実施したと仮定して、どのような成果があると考えられますか。あてはまるもの(近いもの) 3つに☑をつけてください。また、（　　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認することができる
□②　集団生活で社会性を培うことができる
□③　異なる環境での適応能力を培うことができる
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培うことができる
□⑤　地元でのつながりや人間関係を形成することができる
□⑥　地元での生活基盤を形成することができる
□⑦　児童生徒について理解してもらえる
□⑧　盲学校について理解してもらえる
□⑨　保護者や本人のニーズに答えることができる
（具体的に…　　）
□⑩　その他(　　)

3．今後、居住地校交流を実施する予定がありますか。あてはまるものに☑をつけてください。また、（　　）には具体的にお書きください。

□①　来年度より実施の予定　　□②　２～３年以内に実施の予定
□③　未定だが将来的には実施の予定　　□④　実施の予定はない
□⑤　わからない
□⑥　その他(　　)

4．居住地校交流について、感じていることや意見がありましたら、ご自由にお書きください。

このページの記入が終わったら小学部に関する設問は終了です。ご協力ありがとうございます。

この用紙は　中学部用です

Ⅱ．学校間交流について

＊以下の設問には、学校間交流をしている場合にお答えください。
＊学校間交流をしていなければ「Ⅳ. 学校間交流をしていない場合」（中学部－７ページ）」に進んでください。

1．学校間交流を始めたのはいつですか。具体的にお書きください。（例…平成〇年度より実施）

2．昨年度（平成 16 年度）の学校間交流の実施状況について、下の表に記入してください。

実施状況	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回	８回以上	実施していない
生徒数	人	人	人	人	人	人	人	人	人

3．昨年度（平成 16 年度）に学校間交流を実施した生徒について、主たる交流先（回数が多い交流先）の状況によって分類し、右の表に記入してください。

主たる交流先が	同学年である生徒数	人
	下学年である生徒数	人
	上学年である生徒数	人

4．学校間交流について、実施しているもの全てに☑をつけてください。また、その内容について具体的にお書きください。

□①　各教科（　　）
□②　道　徳（　　）
□③　特別活動（　　）
□④　総合的な学習の時間（　　）
□⑤　その他（　　）

5．学校間交流の目的やねらいについて、特に重要と思われるもの３つに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認する
□②　集団生活で社会性を培う
□③　異なる環境での適応能力を培う
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培う
□⑤　地域でのつながりや人間関係を形成する
□⑥　地域での生活基盤を形成する
□⑦　児童生徒について理解してもらう
□⑧　盲学校について理解してもらう
□⑨　保護者や本人のニーズに答える
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

6．学校間交流を実施した成果について、あてはまるもの（近いもの）３つに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　地域に居住する一員であることを互いに確認できた
□②　集団生活で社会性を培うことができた
□③　異なる環境での適応能力を培うことができた
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培うことができた
□⑤　地域でのつながりや人間関係を形成することができた
□⑥　地域での生活基盤を形成することができた
□⑦　児童生徒について理解してもらえた
□⑧　盲学校について理解してもらえた
□⑨　保護者や本人のニーズに答えることができた
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

7．学校間交流を実施しての課題や問題点等について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　実施相手校の受け入れ体制について
□②　実施相手校の意識・理解について
□③　自校（校内）の体制について
□④　学校に残る児童生徒の対応について
□⑤　安全確保・緊急対応の問題
□⑥　付き添い（送迎も含む）の問題
□⑦　全員が実施できない
□⑧　交流に関する経費の問題
□⑨　児童生徒の居住地域と学校との距離の問題
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

8．学校間交流について、感じていることや意見がありましたら、ご自由にお書きください。

このページの記入が終わったら「Ⅲ．学校間交流の実際（中学部－３ページ）」に進んでください

Ⅲ．学校間交流の実際

ここからは、以下の条件に該当する生徒１人（以下Ａさんと呼びます）を選んで記入してください。

（条件）　・昨年度（平成 16 年度）に通常の学級と交流し、教科学習の経験がある
・中学部に在籍する生徒のうち、もっとも高学年である
・障害種別や程度は問わない

なお、プライバシーの保護については以下のように厳重に行います。
・調査用紙は当研究所内の研究分担者のみが読むこととし、他の者が読むことはありません。
・結果の公表にあたって地域名（都道府県名、市町村名）や学校名を明らかになることはありません。
以後の設問には差し支えない範囲でお答えください。

１．Ａさんについてあてはまるところに☑をつけ、（　）に記入してください。

⑴学年　（　　）年生

⑵性別　□①　男　　□②　女

⑶Ａさんの状態について

①眼疾患名（例　未熟児網膜症）　（　　）

②遠距離視力（矯正視力で、あてはまるものを〇で囲んでください。）

a　指数弁以下　　b　0.02 未満　　c　0.02 以上 0.04 未満
d　0.04 以上 0.1 未満　　e　0.1 以上 0.3 未満　　f　0.3 以上　　g　不明

③視覚補助具の使用状況（例：単眼鏡６倍、ルーペ 10 倍）

（　　）

④視覚以外の障害（例：知的障害）

（　　）

２．Ａさんの【学校間交流】についてあてはまるところに☑をつけ、（　）に記入してください。

⑴何年生から交流をしていますか

□①　中学部入学時から　　□②　（　　）年生の（　　）学期から

⑵昨年度（平成 16 年度）は、何回、学校間交流をしましたか。　（　　）回

３．Ａさんの【学校間交流】について、交流先の学級で配慮していることを記述してください。

⑴ Ａさんへの配慮

（例：Ａさんが見やすい拡大教材を準備した。教科書等を点訳した。）

（　　）

⑵ 施設設備など環境への配慮

（例：Ａさんが見やすいように傾斜机、あるいは個別照明等を設置した。）

（　　）

⑶ 学級の他の児童生徒への働きかけなどを通して行う配慮

（例：Ａさんへの手引きの仕方などについて事前指導を行った。）

（　　）

⑷ その他

（　　）

４．Ａさんの【学校間交流】について、教育活動毎に選択して次ページの表に記入してください。

【交流の仕方】　それぞれの教科等について、Ａさんが交流している通常の学級が、同学年であれば①、下学年であれば②、上学年であれば③を記入してください。していない教科等は空欄のままにしてください。

【教　科　書】　交流している教科等について、Ａさんが使用している教科書が、通常の学級と同じものであれば①、通常の学級で使用しているものを複写したり拡大するなど加工したもの（拡大教科書等を含む）であれば②、通常の学級で使用しているものと違うもの（下学年のものやいわゆる 107 条本等）であれば③を記入してください。

【教　　材】　交流している教科等について、Ａさんが使用している教材が、通常の学級と同じものであれば①、通常の学級で使用しているものを複写したり拡大するなど加工したものであれば②、通常の学級で使用しているものと違うもの（下学年のもの等）であれば③を記入してください。

【教 材 作 成】　【教材】についての回答が②③の場合、教材作成をしているのが、通常の学級の教員の場合は①、盲学校の教員の場合は②を記入してください。

【評　　価】　交流している教科等について、Ａさんに対する評価を、通常の学級の教員がしている場合は①、盲学校の教員がしている場合は②を記入してください。

【付 き 添 い】　交流している教科等について、その時間に付き添っているのが、盲学校の教員の場合は①、Ａさんの保護者の場合は②、付き添っていない場合は③を記入してください。

この用紙は　中学部用です

	交流の仕方	教科書	教材	教材作成	評価	付き添い
国語						
算数・数学						
社会						
理科						
生活科						
英語						
図工・美術						
体育						
技術・家庭						
音楽						
道徳						
特別活動						
総合的な学習の時間						
学級活動						
給食						
清掃						
休み時間						
選択肢	①＝同学年 ②＝下学年 ③＝上学年	①＝通常の学級と同じ ②＝①を加工したもの ③＝①とは違うもの		①＝通常の学級 ②＝盲学校		①＝盲学校教員 ②＝保護者 ③＝介助員等 ④＝ボランティア等 ⑤＝なし

5．Ａさんの学校間交流の目的やねらいについて、特に重要と思われるもの３つに☑をつけてください。また（　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認する
□②　集団生活で社会性を培う
□③　異なる環境での適応能力を培う
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培う
□⑤　地域でのつながりや人間関係を形成する
□⑥　地域での生活基盤を形成する
□⑦　Ａさんについて理解してもらう
□⑧　盲学校について理解してもらう
□⑨　保護者や本人のニーズに答える
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

6．Ａさんが学校間交流を実施した成果について、あてはまるもの（近いもの）３つに☑をつけてください。
また、（　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認できた
□②　集団生活で社会性を培うことができた
□③　異なる環境での適応能力を培うことができた
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培うことができた
□⑤　地域でのつながりや人間関係を形成することができた
□⑥　地域での生活基盤を形成することができた
□⑦　Ａさんについて理解してもらえた
□⑧　盲学校について理解してもらえた
□⑨　保護者や本人のニーズに答えることができた
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

7．Ａさんの学校間交流を実施しての課題や問題点等について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。
また、（　　）には具体的にお書きください。

□①　実施相手校の受け入れ体制について
□②　実施相手校の意識・理解について
□③　自校（校内）の体制について
□④　学校に残る児童生徒の対応について
□⑤　安全確保・緊急対応の問題
□⑥　付き添い（送迎も含む）の問題
□⑦　全員が実施できない
□⑧　交流に関する経費の問題
□⑨　児童生徒の居住地域と学校との距離の問題
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

8．Ａさんの学校間交流について感じていることや意見がありましたら、ご自由にお書きください。

このページの記入が終わったら「Ⅴ．居住地校交流について（中学部－８ページ）」に進んでください

Ⅳ．学校間交流をしていない場合

1．学校間交流を実施していない理由について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　実施相手校の受け入れ体制の問題
□②　実施相手校の意識・理解の問題
□③　自校（校内）の体制の問題
□④　学校に残る児童生徒の対応の問題
□⑤　安全確保・緊急対応の問題
□⑥　付き添い（送迎も含む）の問題
□⑦　全員が実施できにくい
□⑧　交流に関する経費の問題
□⑨　保護者や本人からの要望がない
□⑩　ゆとりがない（忙しい）
□⑪　児童生徒の居住地域と学校との距離の問題
（具体的に…　　）
□⑫　学校の担当業務ではない
□⑬　わからない
□⑭　その他（　　）

2．もし学校間交流を実施したと仮定して、どのような成果があると考えられますか。あてはまるもの（近いもの）３つに☑をつけてください。また、（　　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認することができる
□②　集団生活で社会性を培うことができる
□③　異なる環境での適応能力を培うことができる
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培うことができる
□⑤　地域でのつながりや人間関係を形成することができる
□⑥　地域での生活基盤を形成することができる
□⑦　児童生徒について理解してもらえる
□⑧　盲学校について理解してもらえる
□⑨　保護者や本人のニーズに答えることができる
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

3．今後、学校間交流を実施する予定がありますか。あてはまるものに☑をつけてください。また、（　　）には具体的にお書きください。

□①　来年度より実施の予定
□②　２～３年以内に実施の予定
□③　未定だが将来的には実施の予定
□④　実施の予定はない
□⑤　わからない
□⑥　その他（　　）

4．学校間交流について、感じていることや意見がありましたら、ご自由にお書きください。

このページの記入が終わったら「Ⅴ．居住地校交流について（中学部－８ページ）」に進んでください

Ⅴ．居住地校交流について

＊以下の設問には、居住地校交流をしている場合にお答えください。
＊居住地交流をしていなければ「Ⅶ．居住地校交流をしていない場合」（中学部－14ページ）」に進んでください。

1．居住地校交流を始めたのはいつですか。具体的にお書きください。（例…平成〇年度より実施）

2．昨年度（平成16年度）の居住地校交流の実施状況について、下の表に記入してください。

実施状況	１回	２回	３回	４回	５回	６回	７回	８回以上	実施していない
生徒数	人	人	人	人	人	人	人	人	人

3．昨年度（平成16年度）に居住地校交流を実施した生徒について、主たる交流先（回数の多い交流先）の状況によって分類し、右の表に記入してください。

主たる交流先が	同学年である生徒数	人
	下学年である生徒数	人
	上学年である生徒数	人

4．居住地校交流について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。また、その内容について具体的にお書きください。

□①　各教科（　　）
□②　道　徳（　　）
□③　特別活動（　　）
□④　総合的な学習の時間（　　）
□⑤　その他（　　）

5．居住地校交流の目的やねらいについて、特に重要と思われるもの３つに☑をつけてください。（　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認する
□②　集団生活で社会性を培う
□③　異なる環境での適応能力を培う
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培う
□⑤　地元でのつながりや人間関係を形成する
□⑥　地元での生活基盤を形成する
□⑦　児童生徒について理解してもらう
□⑧　盲学校について理解してもらう
□⑨　保護者や本人のニーズに答える
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

6．居住地校交流を実施した成果について、あてはまるもの（近いもの）３つに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認できた
□②　集団生活で社会性を培うことができた
□③　異なる環境での適応能力を培うことができた
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培うことができた
□⑤　地元でのつながりや人間関係を形成することができた
□⑥　地元での生活基盤を形成することができた
□⑦　児童生徒について理解してもらえた
□⑧　盲学校について理解してもらえた
□⑨　保護者や本人のニーズに答えることができた
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

7．居住地校交流を実施しての課題や問題点等について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　実施相手校の受け入れ体制について
□②　実施相手校の意識・理解について
□③　自校（校内）の体制について
□④　学校に残る児童生徒の対応について
□⑤　安全確保・緊急対応の問題
□⑥　付き添い（送迎も含む）の問題
□⑦　全員が実施できない
□⑧　交流に関する経費の問題
□⑨　児童生徒の居住地域と学校との距離の問題
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

8．居住地校交流について、感じていることや意見がありましたら、ご自由にお書きください。

このページの記入が終わったら「Ⅵ．居住地校交流実際（中学部－10ページ）」に進んでください

Ⅵ. 居住地校交流の実際

ここからは、以下の条件に該当する生徒１人（以下Ｂさんと呼びますが、学校間交流で回答していただいたＡさんと同じ生徒でも構いません）を選んで記入してください。

（条件）　・昨年度（平成 16 年度）居住地校交流を行って、教科学習の経験がある
・中学部に在籍する生徒のうち、もっとも高学年である
・障害種別や程度は問わない

なお、プライバシーの保護については以下のように厳重に行います。
・調査用紙は当研究所内の研究分担者のみが読むこととし、他の者が読むことはありません。
・結果の公表にあたって地域名（都道府県名、市町村名）や学校名を明らかになることはありません。
以後の設問には差し支えない範囲でお答えください。

１．Ｂさんについてあてはまるところに☑をつけ、（　）に記入してください。

⑴学年　（　　）年生

⑵性別　□①　男　　□②　女

⑶Ｂさんの状態について

①眼疾患名（例　未熟児網膜症）　（　　）

②遠距離視力（矯正視力で、あてはまるものを〇で囲んでください。）

a　指数弁以下　　b　0.02 未満　　c　0.02 以上 0.04 未満
d　0.04 以上 0.1 未満　　e　0.1 以上 0.3 未満　　f　0.3 以上　　g　不明

③視覚補助具の使用状況（例：単眼鏡６倍、ルーペ 10 倍）

（　　）

④視覚以外の障害（例：知的障害）

（　　）

２．Ｂさんの【居住地校交流】についてあてはまるところに☑をつけ、（　）に記入してください。

⑴何年生から交流をしていますか

□①　中学部入学時から　　□②　（　　）年生の（　　）学期から

⑵昨年度（平成 16 年度）は、何回、居住地校交流しましたか。　（　　）回

３．Ｂさんの【居住地校交流】について、交流先の学級で配慮していることを記述してください。

⑴ Ｂさんへの配慮

（例：Ｂさんが見やすい拡大教材を準備した。教科書等を点訳した。）

（　　）

⑵ 施設設備など環境への配慮

（例：Ｂさんが見やすいように傾斜机、あるいは個別照明等を設置した。）

（　　）

⑶ 学級の他の児童生徒への働きかけなどを通して行う配慮

（例：Ｂさんへの手引きの仕方などについて事前指導を行った。）

（　　）

⑷ その他

（　　）

４．Ｂさんの【居住地校交流】について、教育活動毎に選択して表に記入してください。

【交流の仕方】　それぞれの教科等について、Ｂさんが交流している通常の学級が、同学年であれば①、下学年であれば②、上学年であれば③を記入してください。していない教科等は空欄のままにしてください。

【教　科　書】　交流している教科等について、Ｂさんが使用している教科書が、通常の学級と同じものであれば①､通常の学級で使用しているものを複写したり拡大するなど加工したもの（拡大教科書等を含む）であれば②、通常の学級で使用しているものと違うもの（下学年のものやいわゆる 107 条本等）であれば③を記入してください。

【教　　材】　交流している教科等について、Ｂさんが使用している教材が、通常の学級と同じものであれば①、通常の学級で使用しているものを複写したり拡大するなど加工したものであれば②、通常の学級で使用しているものと違うもの（下学年のもの等）であれば③を記入してください。

【教 材 作 成】　【教材】についての回答が②③の場合、教材作成をしているのが、通常の学級の教員の場合は①、盲学校の教員の場合は②を記入してください。

【評　　価】　交流している教科等について、Ｂさんに対する評価を、通常の学級の教員がしている場合は①、盲学校の教員がしている場合は②を記入してください。

【付 き 添 い】　交流している教科等について、その時間に付き添っているのが、盲学校の教員の場合は①、Ｂさんの保護者の場合は②、付き添っていない場合は③を記入してください。

この用紙は　中学部用です

	交流の仕方	教科書	教材	教材作成	評価	付き添い
国語						
算数・数学						
社会						
理科						
生活科						
英語						
図工・美術						
体育						
技術・家庭						
音楽						
道徳						
特別活動						
総合的な学習の時間						
学級活動						
給食						
清掃						
休み時間						
選択肢	①＝同学年 ②＝下学年 ③＝上学年	①＝通常の学級と同じ ②＝①を加工したもの ③＝①とは違うもの		①＝通常の学級 ②＝盲学校		①＝盲学校教員 ②＝保護者 ③＝介助員等 ④＝ボランティア等 ⑤＝なし

5．Ｂさんの居住地校交流の目的やねらいについて、特に重要と思われるもの３つに☑をつけてください。
（　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認する
□②　集団生活で社会性を培う
□③　異なる環境での適応能力を培う
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培う
□⑤　地元でのつながりや人間関係を形成する
□⑥　地元での生活基盤を形成する
□⑦　Ｂさんについて理解してもらう
□⑧　盲学校について理解してもらう
□⑨　保護者や本人のニーズに答える
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

6．Ｂさんが居住地校交流を実施した成果について、あてはまるもの（近いもの）３つに☑をつけてください。
また、（　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認できた
□②　集団生活で社会性を培うことができた
□③　異なる環境での適応能力を培うことができた
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培うことができた
□⑤　地元でのつながりや人間関係を形成することができた
□⑥　地元での生活基盤を形成することができた
□⑦　Ｂさんについて理解してもらえた
□⑧　盲学校について理解してもらえた
□⑨　保護者や本人のニーズに答えることができた
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

7．Ｂさんの居住地校交流を実施しての課題や問題点等について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　実施相手校の受け入れ体制について
□②　実施相手校の意識・理解について
□③　自校（校内）の体制について
□④　学校に残る児童生徒の対応について
□⑤　安全確保・緊急対応の問題
□⑥　付き添い（送迎も含む）の問題
□⑦　全員が実施できない
□⑧　交流に関する経費の問題
□⑨　児童生徒の居住地域と学校との距離の問題
（具体的に…　　）
□⑩　その他（　　）

8．Ｂさんの居住地校交流について感じていることや意見がありましたら、ご自由にお書きください。

このページの記入が終わったら中学部に関する設問は終了です。ご協力ありがとうございます。

Ⅶ. 居住地校交流をしていない場合

1．居住地校交流を実施していない理由について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　実施相手校の受け入れ体制の問題　　□②　実施相手校の意識・理解の問題
□③　自校(校内)の体制の問題　　□④　学校に残る児童生徒の対応の問題
□⑤　安全確保・緊急対応の問題　　□⑥　付き添い(送迎も含む)の問題
□⑦　全員が実施できにくい　　□⑧　交流に関する経費の問題
□⑨　保護者や本人からの要望がない　　□⑩　ゆとりがない（忙しい）
□⑩　児童生徒の居住地域と学校との距離の問題
（具体的に…　　）
□⑫　学校の担当業務ではない　　□⑬　わからない
□⑭　その他(　　)

2．もし居住地校交流を実施したと仮定して、どのような成果があると考えられますか。あてはまるもの(近いもの) 3つに☑をつけてください。また、（　　）には具体的にお書きください。

□①　地域の一員であることを互いに確認することができる
□②　集団生活で社会性を培うことができる
□③　異なる環境での適応能力を培うことができる
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培うことができる
□⑤　地元でのつながりや人間関係を形成することができる
□⑥　地元での生活基盤を形成することができる
□⑦　児童生徒について理解してもらえる
□⑧　盲学校について理解してもらえる
□⑨　保護者や本人のニーズに答えることができる
（具体的に…　　）
□⑩　その他(　　)

3．今後、居住地校交流を実施する予定がありますか。あてはまるものに☑をつけてください。また、（　　）には具体的にお書きください。

□①　来年度より実施の予定　　□②　２～３年以内に実施の予定
□③　未定だが将来的には実施の予定　　□④　実施の予定はない
□⑤　わからない
□⑥　その他(　　)

4．居住地校交流について、感じていることや意見がありましたら、ご自由にお書きください。

このページの記入が終わったら中学部に関する設問は終了です。ご協力ありがとうございます。

Ⅰ．学校全体に関する基本項目

1．ご記入いただいている先生についてご記入ください。

⑴学 校 名 ＿＿＿＿＿立＿＿＿＿＿＿小学校

⑵記入者氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ ⑶記入者の校務分掌等 ＿＿＿＿＿＿＿＿

2．本年度の児童数等と特殊学級における交流及び共同学習等の状況について記入してください。

⑴通常の学級について

学　年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
学 級 数							学級
児 童 数							人

⑵知的障害特殊学級について

〇学級数＿＿＿学級　担任数＿＿＿人　その他職員（＿＿＿＿）＿＿人

学　年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
在籍児童数							人
交流を実施している児童数							人

〇知的障害特殊学級が開設された年度：　昭和・平成　＿＿＿年度

3．交流及び共同学習について、学校運営計画等にどのように位置づけていますか。あてはまるものに☑をつけてください。よろしければ（　　）にその内容（文言）をお書きください。

□①　今年度の重点目標の一つとして掲げている

（　　）

□②　各学年の重点実践事項の一つとして掲げている

（　　）

□③　各校務分掌、各種委員会の運営計画で取り上げている

（　　）

□④　その他

（　　）

□⑤　特に取り上げてはいない

4．交流及び共同学習を推進する校務分掌がありますか。ある場合はその名称をご記入ください。

□①　あ　る　（名称：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）　□②　な　い

5．交流及び共同学習を推進する校内研究体制等があれば、その名称と、研究内容等を記入してください。

⑴名　　称：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

⑵研究内容：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Ⅱ．特殊学級における交流及び共同学習について

ここからは、知的障害特殊学級在籍の児童生徒の交流及び共同学習について記入してください。

1．在籍児童全員について、今年度の交流の実施状況を１週間あたりの平均時数で分類し記入してください。

１週間の交流時間数	児童数		１週間の交流時間数	児童数
1時間程度	人		5時間を超え8時間まで	人
2時間程度	人		8時間を超え 12 時間まで	人
3時間程度	人		12 時間を超えて実施	人
4時間程度	人		実施していない	人
5時間程度	人			

2．今年度、異なる学年の学級と交流をした児童生徒がいれば、その人数を記入してください

(1) 下学年の学級と交流　＿＿＿人

(2) 上学年の学級と交流　＿＿＿人

3．通常の学級との交流の目的やねらいについて、特に重要と思われるもの３つに☑をつけてください。また、(　　)には具体的にお書きください。

□①　学校の一員であることを互いに確認する

□②　集団生活で社会性を培う

□③　異なる環境での適応能力を培う

□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培う

□⑤　校内でのつながりや人間関係を形成する

□⑥　特殊学級の児童生徒について理解してもらう

□⑦　特殊学級について理解してもらう

□⑧　保護者や本人のニーズに答える

(具体的に…　　)

□⑨　その他(　　)

4．通常の学級との交流を実施した成果について、あてはまるもの(近いもの) ３つに☑をつけてください。また、(　)には具体的にお書きください。

□①　学校の一員であることを互いに確認できた

□②　集団生活で社会性を培うことができた

□③　異なる環境での適応能力を培うことができた

□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培うことができた

□⑤　校内でのつながりや人間関係を形成することができた

□⑥　特殊学級の児童生徒について理解してもらえた

□⑦　特殊学級について理解してもらえた

□⑧　保護者や本人のニーズに答えることができた

(具体的に…　　)

□⑨　その他(　　)

5．通常の学級との交流を実施しての課題や問題点等について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。
また、（　）には具体的にお書きください。

□①　交流先の学級の受け入れ体制について
□②　交流先の学級の担任や児童生徒の意識や理解について
□③　特殊学級と通常の学級との交流についての学校の体制について
□④　交流時、特殊学級に残る児童生徒の対応について
□⑤　安全確保・緊急対応の問題
□⑥　特殊学級担任の付き添いの問題
□⑦　実施できる児童生徒と実施できない児童生徒がいる
（具体的に…　　）
□⑧　その他（　　）

6．交流及び共同学習について、感じていることや意見がありましたら、ご自由にお書きください。

Ⅲ．交流及び共同学習の実際

ここからは、以下の条件に該当する児童１人（以下Ａさんと呼びます）を選んで記入してください。

（条件）　・通常の学級との交流で、教科学習の経験がある
・特殊学級に在籍する児童のうち、もっとも高学年である
・障害種別や程度は問わない

なお、プライバシーの保護については以下のように厳重に行います。
・調査用紙は当研究所内の研究分担者のみが読むこととし、他の者が読むことはありません。
・結果の公表にあたって地域名（都道府県名、市町村名）や学校名を明らかにすることはありません。
以後の設問には差し支えない範囲でお答えください。

1．Ａさんについてあてはまるところにレ印をつけ、（　）に記入してください。
⑴学年　（　　）年生　　⑵性別　□①　男　□②　女

⑶Ａさんの状態について、各項目のあてはまるところにレ印をつけてください。
①言語理解・表出
□1．言葉の意味を理解したり、意思を伝達したりすることが特に困難である。
□2．単語を使った簡単な会話はできるが、抽象的な言葉の意味を理解するのは困難である。
□3．通常の日常的な会話はほぼ可能であるが、抽象的な概念を用いての複雑な思考をすることが困難である。

②日常生活活動（食事、衣服の着脱、排泄、簡単な片づけ、身の回りの道具の活用等）
□1．日常生活活動に、全介助・支援を必要とする。
□2．日常生活活動に、部分的な介助・支援を必要とする。
□3．日常生活活動は、ほぼ一人でできる。

⑷知能指数について、あてはまるものにレ印をつけて下さい。

□1．ＩＱ２５程度まで　　□2．ＩＱ２５～ＩＱ５０程度
□3．ＩＱ５０～ＩＱ７５程度　　□4．ＩＱ７５～ＩＱ８５程度
□5．ＩＱ８５を超える程度　　□6．わからない

⑸知的障害以外に診断（例：ダウン症候群，自閉症など）や重複する障害があれば記入してください

⑹Ａさんが日常生活で利用している補助具や配慮事項を記入してください（例：コミュニケーションボードなど）。

２．Ａさんの交流についてあてはまるところに☑をつけ、（　）に記入してください。

⑴何年生から交流をしていますか

□①　小学校入学時から　　□②　（　　）年生の（　　）学期から

⑵現在は週に何時間交流していますか　　（　　）時間

３．Ａさんの交流について、交流先の学級で配慮していることを記述してください。

⑴Ａさんへの配慮（例：個別的に指示を与えるときに、絵カードを利用する）

⑵環境・設備面での配慮（例：交流級の担任が個別に指示を与えられるように、座席を前にする）

⑶集団参加への配慮（例：交流先の児童にＡさんの特性を伝えておく）

⑷その他

４．Ａさんの交流について、教育活動毎に選択して次ページの表に記入してください。

【交流の仕方】　それぞれの教科等について、Ａさんが交流している通常の学級が、同学年であれば①、下学年であれば②、上学年であれば③を記入してください。していない教科等は空欄のままにしてください。

【教　科　書】　交流している教科等について、Ａさんが使用している教科書が、通常の学級と同じものであれば①、通常の学級で使用しているものを複写したり拡大するなど加工したも

の（拡大教科書等を含む）であれば②、通常の学級で使用しているものと違うもの（下学年のものやいわゆる 107 条本等）であれば③を記入してください。

【教　　材】 交流している教科等について、Ａさんが使用している教材が、通常の学級と同じものであれば①、通常の学級で使用しているものを複写したり拡大するなど加工したものであれば②、通常の学級で使用しているものと違うもの（下学年のもの等）であれば③を記入してください。

【教材作成】 【教材】についての回答が②③の場合、教材作成をしているのが、通常の学級の教員の場合は①、特殊学級の教員の場合は②を記入してください。

【評　　価】 交流している教科等について、Ａさんに対する評価を、通常の学級の教員がしている場合は①、特殊学級の教員がしている場合は②を記入してください。

【付き添い】 交流している教科等について、その時間に付き添っているのが、特殊学級の教員の場合は①、Ａさんの保護者の場合は②、介助員等の場合は③、ボランティア等の場合は④、付き添っていない場合は⑤を記入してください。

	交流の仕方	教科書	教材	教材作成	評価	付き添い
国語						
算数・数学						
社会						
理科						
生活科						
英語						
図工・美術						
体育						
技術・家庭						
音楽						
道徳						
特別活動						
総合的な学習の時間						
学級活動						
給食						
清掃						
休み時間						
選択肢	①＝同学年 ②＝下学年 ③＝上学年	①＝通常の学級と同じ ②＝①を加工したもの ③＝①とは違うもの		①＝通常の学級 ②＝特殊学級		①＝特殊学級教員 ②＝保護者 ③＝介助員等 ④＝ボランティア等 ⑤＝なし

5．Aさんの交流の目的やねらいについて、特に重要と思われるもの3つに☑をつけてください。（　）には具体的にお書きください。

□①　学校の一員であることを互いに確認する
□②　集団生活で社会性を培う
□③　異なる環境での適応能力を培う
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培う
□⑤　校内でのつながりや人間関係を形成する
□⑥　Aさんについて理解してもらう
□⑦　特殊学級について理解してもらう
□⑧　保護者や本人のニーズに答える
（具体的に…　　）
□⑨　その他（　　）

6．Aさんの交流を実施した成果について、当てはまるもの（近いもの）3つに☑をつけてください。また、（　）には具体的にお書きください。

□①　学校の一員であることを互いに確認できた
□②　集団生活で社会性を培うことができた
□③　異なる環境での適応能力を培うことができた
□④　より大きな集団で学習を経験し、学ぶ力を培うことができた
□⑤　校内でのつながりや人間関係を形成することができた
□⑥　Aさんについて理解してもらえた
□⑦　特殊学級について理解してもらえた
□⑧　保護者やAさんのニーズに答えることができた
（具体的に…　　）
□⑨　その他（　　）

7．Aさんの交流を実施しての課題や問題点等について、あてはまるもの全てに☑をつけてください。また、（　　）には具体的にお書きください。

□①　交流先の学級の受け入れ体制について
□②　交流先の学級の担任や児童生徒の意識や理解について
□③　交流時、特殊学級に残る児童生徒の対応について
□④　安全確保・緊急対応の問題
□⑤　特殊学級担任の付き添いの問題
□⑥　その他（　　）

8．Aさんの交流について感じていることや意見がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。